

## DIALOGUE

⇒ サステナビリティへの取り組み

# 事業の持続可能性を高めつつ、 バンダイナムコらしいサステナブル活動で 笑顔未来へつなぐ

2022年4月、経営企画本部内に新設された「サステナビリティ推進室」は、中期計画の重点戦略「サステナビリティ」を推進する司令塔です。社内啓発や海外展開、人権から情報セキュリティまで、幅広い分野でグループの持続可能性を支える2人に話を聞きました。

### KOJI TSUYUKI

露木 項治  
株式会社バンダイナムコホールディングス  
経営企画本部  
サステナビリティ推進室  
ゼネラルマネージャー

### YUKO ARISHIMA

有島 優子  
株式会社バンダイナムコホールディングス  
経営企画本部  
サステナビリティ推進室  
アシスタントマネージャー

### 基盤整備から新たなフェーズへ

露木 サステナビリティ推進室は発足1年余りの組織ですが、グループのサステナビリティ課題をまとめ、バンダイナムコグループ各社に発信するとともに、ファンに届く有効な取り組みがなされるよう、様々な施策を推進しています。2023年3月期は土台固めの期間として、基本的な概念の理解・浸透に努めました。この間、サステナビリティへの理解と意識変革が進んだことは、社内アンケート結果にも表れています。

制度面では、取締役会直下に「グループサステナビリティ委員会」が設置されました。ここに事業統括会社の代表取締役



社長を含む社内取締役が参加していることは、取締役報酬へのサステナビリティ評価導入と併せ、各社の取り組みに目に見える変化をもたらしました。(株)バンダイと(株)BANDAI SPIRITSの「未来・クリエイション」プロジェクトなどもその一例です。

こうした成果を踏まえ、2024年3月期から取り組みは新たなフェーズに移行します。全社的にマテリアリティの「自分事化」を進める一方、取り組みの規模をワールドワイドに拡大していきます。

有島 自分事化に関しては、2022年からグループ横断で「MySDGsプロジェクト」を推進しています。国内グループ会社へのポスター掲示を手始めに、2022年11月には、WEB社内報の中にポータルサイトを立ち上げました。社員各自の日々の取り組みなどを紹介しつつ、パーパスやマテリアリティへの意識付けをはかっています。海外従業員に向けては英語版を作成し、海外グループ会社へのアンケート調査も実施しました。

露木 現在、海外のエリアごとに課題の洗い出しを進めており、2023

年10月には日本で「グローバルサステナビリティサミット」を開催します。各地域統括会社の担当者が集まり、グループとして取り組みの標準化を目指す方針です。

### 人権・環境分野の取り組み

露木 マテリアリティに関連して、特に人権への取り組みは、関連部署との連携を取りつつも、当推進室が積極的にリードすべき分野です。

有島 2022年、NGOの協力を得て人権デューデリジェンスを実施し、潜在リスクを洗い出しました。これを受け、2024年3月期は具体的な体制づくりを進めていきます。まず、グループ人権方針を策定し、社内への浸透をはかります。併せて、サプライヤーの管理も含め、グループ各社で実施される施策の標準化を目指します。

また環境分野では、「ガンブラ」「ガシャポン」といったプラスチックのリサイクルに続く新機軸が生まれてくるよう、積極的な社内啓発を行っていきます。

露木

2021年に策定された「サステナビリティ方針」では、カーボンニュートラルに向けた二酸化炭素排出削減目標を掲げています。これはScope1/2\*における削減を規定したのですが、併せて現在、Scope3での取り組みの可能性を検討しており、目標値についても議論を進めています。プラスチック問題への取り組みとともに、こうしたバンダイナムコならではの新機軸を打ち出すことが、企業価値の真の向上につながっていくと考えています。

\* Scope1: 自社の活動(燃料燃焼・工業プロセス)からの直接的排出  
Scope2: 電気・熱・蒸気の調達・使用に伴う間接的排出  
Scope3: Scope1、Scope2以外の間接的排出

### 事業の持続可能性を支えるもの

露木

サステナビリティ推進室の活動範囲には、事業の持続可能性に関わる「危機管理・コンプライアンス」「情報セキュリティ」の分野も含まれます。部署内にそれぞれ担当チームを置き、適宜連携するとともに、BCP(事業継続計画)案件では危機管理と情報セキュリティの両者が一体的に機能します。2022年



の不正アクセス問題を契機に、システムの抜本的強化や報告系統の一元化をはかった結果、両分野における国内外のインシデント報告が、リアルタイムで上がってくるようになりました。

今後の取り組みとして、危機管理・コンプライアンスでは、e-learning・研修などの強化と拡充、情報セキュリティでは、個人情報やAIへの対策強化を進めていく方針です。

### 統合的価値追求のストーリー

有島

今後も引き続き、バンダイナムコにおけるサステナビリティ文化の醸成に貢献していきます。これまで以上

に発信力を高め、社員の皆さんが気づかない部分について、「それもサステナビリティにつながる」と理解や認識を深めてもらうことで、新しい取り組みに向けた情報提供がされるようになっていきたいと思います。また、取り組みが日本国内だけで閉じないよう、グローバル連携に注力し、ALL BANDAI NAMCOのサステナブル活動を実現していきたいと考えています。

露木

すべては自分事であり、この取り組みなくしてバンダイナムコの未来はありません。1年目は概念的な話が多くなりましたが、より分かりやすく、「笑顔未来へつなぐことこそがサステナブル活動だ」というメッセージを発信したいと思います。IP戦略や個々の事業が、サステナビリティと不可分につながっていること。例えば、低消費電力のクレイゲーム機「CLENA3」の販売拡大が、経済的・社会的価値の同時追求にほかならないこと。こうしたストーリーが個々に浸透することで、今中期計画の3つの重点戦略は互いに連動していきます。そうして初めてバンダイナムコの事業基盤はより盤石になっていくと考えています。